

第4回唐津市立学校通学区域審議会会議録（まとめ）

〔事〕：事務局、〔委〕：委員

唐津市の現状説明（今後の児童・生徒数の見通し）

- 〔事〕：最新の論点データ集をもとに令和27年度までの児童・生徒数推計を出している。全体比較では、令和27年度には小学校児童が約30%の減、中学校生徒が約25%の減になると予想。
- 〔委〕：東唐津小学校、伊岐佐小学校がR17以降児童数が増える推測だが、こういったデータを基に推計が出ているのか。打上小学校も変わらないまま推移しているが。
- 〔事〕：一般的な人口推計の手法により、これまでの人口データ、出生数、死亡数、人口の移動等の実績より計算されている。
- 〔委〕：論点データ集の正確さは。今回のデータでは伊岐佐小と東唐津小が複式学級から外れ、統合しなくてよい学校になってしまう。信憑性があるのか。
- 〔事〕：推計のため信憑性ははっきり申し上げられない。確かに複式学級は解消されて見えるが1学年1学級という状況は続く。
- 〔委〕：伊岐佐小はこれまで15人だが、データでは5年後は48人。このデータでは統合の話ができない。相知小は児童が減っており、このデータでも増えていない。
- 〔事〕：おっしゃるとおり論点データでは突然人数が倍になり、つながりがない部分がある。計算上こうなっている。
統合の話をさせていただく場合は、未就学児数が現実の数字として正確に出ているため、その数字を基にした資料で説明させてもらっている。
- 〔委〕：数値の信憑性の意見が出ているが、児童が増えるのであれば統合しなくてもいい、となるため、意見するのが難しいなと思った。
- 〔委〕：今後の統合や、特認校などでもまた変わってくる。数値の信憑性も欠けてくるのではないか。
- 〔委〕：厳木と簗木では12年度が47人に対し17年度が86人とかなり増えているが、何か人口的な増加予測があるのか。
- 〔事〕：出生数、死亡者数、人の移動など、自然増減と社会増減を含む予測であり、単純に今住んでいる人が住み続けた予測ではない。具体的要因までは人口推計のやり方では申し上げられない。
将来的な人口推計として市が公表している数字であり、それぞれ捉え方が違っていても仕方ないと思う。

④委：論点データ推計を何十年ごとにしなくてはいけないなどの理由があるのか。

④事：決まりはないが、市が何か施策をする際は将来的な見通し、計画を立てないといけない。一番は10年後、20年後の人口の増減などで、行う事業や施策も変わってくる。そういった根拠の1つとして推計データを使用するがあくまで推計。参考として理解いただきたい。その点、令和12年までの数字ははっきりとした数字となっている。

④委：もし2、3年後に同じ推計をした場合、大幅に変わる可能性もあるのか。

④事：実数が変わってくるため、違う数字になるというのは当然ありえる。

④委：論点データは何年サイクルで更新しているのか。

④事：5年となっている。

④委：審議会の最終的な目標として、5年後、10年後、それとも更に先までを踏まえたものになるのか。それとも、ある程度の5年後までを見通した内容ではいけないのか。

④事：すごく先の状況は、次やまた次の次の審議会でも議論していくことになる。先を見通した中での意見も大事であり、そこを踏まえ近い将来についてもご意見をいただきたい。

④委：前回まで、ひとまず複式校数改善のため意見を出し合っていた。伊岐佐小はこのデータでは複式学級が解消されてしまう。東唐津小もそうだが、どこを目標にするかとなった場合、やはりこのデータが出た以上頭の中に入ってしまう。要は目標を1学年1学級の解消するのか、複式校数解消にするのか、はっきりしないと、たぶん前に進まないのではないのか。

④委：前回、特定地域の選択制、例えば鏡山小、浜崎小、久里小への通学を認めるとか、希望する学校への通学を認めるとか、あと離島の学校はどこでも希望のところに認めるとかそういった資料があったが、今回の資料とどう絡んでいくかがわからなかった。

④委：最終的な答申に向けた情報収集をこれまでしてきている。今回の論点データ集の予測をどう捉えるか。1学年1学級解消まで突っ込んで話をするのか、それとも複式学級解消をまず課題として議論するのか、もっと別の道で議論を拡張していくのか。

④委：小中学校を一体化するという考え方は何か出しているのか。校区自体を変えるという意見も出ていたが、市としての考えがあるのか。

④事：教育委員会で小中一貫校などといった進め方をする方針は今のところはない。児童・生徒数が増える訳ではないので。地元から小・中学校を同じ所でしてくれたらよいといった声を聞くことはある。

校区見直しは、例えば鏡山小学校、浜崎小学校では児童数が増えており、今後も増え続けるのであれば検討する必要があるかもしれないが、今回示したデータでもわかるとおり、将来的には鏡山小も浜崎小も減っていく予測が出ているため、事務局内部でそういった検討はしていない。

⑤委：出生率自体、全国的に例年減っている。道路ができるとか、大きな工場が建つとか、大きな住宅地ができるとか、よほどの何かがない限り人口も増えない。子どもも将来的に増えないと思う。

⑤委：鏡山小で個人的に問題と思うのは、児童が多過ぎて運動会が2日に分けて開催されるところ。保護者にとっても子どもにとっても、教員にとっても負担。平日開催、日曜日開催と、週2日子供のために休みを取らなくてはいけない状況をどうにかしてやってほしい。将来増えないにしろ、大きく変わらなければずっと続いていく。

⑤委：今後、今の学校数を維持した場合、教員数を維持することは可能なのか。児童・生徒1人当たりの格差が同一市内の中で大きく出てくることがあり得るのか。

⑤事：基本的に学級数に応じ教員数が決まるが、そもそもの教員数が足りないというのが問題としてある。当然、配置できるよう県教委も市教委も努力はするが、理想通りとなると、困難ではあると考えている。

⑤委：保護者としては正直、今後の人口がどうなっていくのかが一番の関心事項。平等な教育を今後市内で受けられなくなるのであれば、そこを直してください、と皆さん言いたいのではないか。

⑤委：小学校でも、この先数年は教員不足が続く感覚を持っている。学校は学級数に応じ教員数が決まるため、担任の教員が先に埋まり、担任以外の教員配置が足りなくなる。メンタル、病気で休みも増えてきている。

以前は講師を頼めばすぐ来てもらえたが、そこが枯渇しており人が見つからない。定年退職された方々しかつてがない状況。

子供の数が減れば学級数も減っていくため、いずれ教員数は少なくて済むようになるという目算を文科省はしているのではないか。

学校現場としては、子どもが授業を受けられない、学習ができないということだけは避けるため、カバーをし合っていくが、教員不足がこの先どこまで続くかはわからない。

⑤委：中学校も同じ状況だが、教科があるため教科による教員不足の差はある。60代、70歳に近い方まで年齢層を延ばして雇用されており、定年した方が普通に授業をされている状況。

⑤委：保護者としては当然質の高い教育の担保のため、講師より正規教員のほうがいい。教員不足の中でその検討も行ってほしいといったことも、今度の答申内容になってくると思う。

■：新しい論点データの数字が、１２年度までと近い数字で繋がっていけばよかったが、学校単位で見た場合に今回そうっておらず、困ったところはある。

しかし、この新しい論点データで見ても、全体の児童生徒は確実に減っていく。未就学児数を基にした将来推計を毎月行っているが、子どもが減り続けているのは間違いない。

この新しい論点データも、学校単位で見た場合のずれがあるかもしれないが、全体の長期的な推測としては、児童生徒は減っていく。

前回、委員の意見にもあったが、全体の児童数は減り続けており、中心部の一部地域に人が流れているだけで、周辺部は全て減っている。

そういったことも含め、１２年までの近い将来、１０年、１５年、２０年後といった、教育委員会としての将来へのビジョンを持っておきたい。

複式学級解消は当然ながら、本来の目標は１学年１学級を解消することだが、今後、統合したのにまた複式学級となるところが出てくる。

２０年後の児童の３割減もおそらくそうっていくのではないかと。長期的にこう進めていくべき、という審議ををお願いできれば。

②：今回、小学校にフォーカスした統廃合、大規模校の改善ということで議論しているが、特に中学校では１７年以降は１学年１学級が増加していく。今日もあったが、複式学級の解消は当然ながら、次の１学年１学級をどうするかということまで突っ込むのか、次の審議会に向けて答申案の中に検討事項として入れるのか。

答申に向け、今度は更に地域に持ち帰ってもらい、こういう話が出たなど反応を事務局に伝えてもらいたい。そして更に答申に向けた審議を進めていきたい。

３月の答申で提案する形になるので、来年１月には具体的な答申案を提示し、委員の皆さんに承認していただく。そう考えると、１１月頃に答申のたたき台を出すスケジュールでと思っている。次回は８月目安で日程調整をさせていただく。